

めぐみイエス・キリスト教会

2023年11月12日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第682号」



2023年標題聖句

第Iヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌196「祈れ物事」 p. 290

【交読文】 No.36 詩篇第116篇 p. 908

【賛美Ⅱ】 新聖歌259「聖いふみは教える」 p. 404

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「み言葉に帰ろう」

【聖書朗読】 ルカの福音書3章1節～6節(新約p. 113上段)

【礼拝説教】 《バプテスマのヨハネの宣教》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1.「主イエス様と関わることになる主要人物」とは？

■**ティベリウス** ローマ帝国の第2代目の皇帝。最初の皇帝アウグストゥスの養子。紀元14年から紀元37年まで在位。ティベリウスの治世の15年(紀元27年9月もしくは10月)に、バプテスマのヨハネが現われ、主イエスの公生涯が始まった。それから37年に死ぬまで23年間ローマ帝国を治めた。

■**ポンティオ・ピラト** ローマ帝国がパレスチナに駐在させていた5代目の行政長官で、総督とも呼ばれている。紀元26～36年までこの地位にあった。主イエスをムチ打ち、十字式刑に処したローマ総督。

■**ヘロデ・アンティパス** ヘロデ大王の第4の妻の息子。ガリラヤとペレヤの国主。異母兄ヘロデ・ピリポの妻と通じ、後彼女と結婚した。主イエスが、エルサレムの宮殿で会った唯一のユダヤの王。

■**ヘロデ・ピリポ** ヘロデ大王とマリアンメ1世との間に生れた息子。後にヘロデ・アンティパスの妻となったヘロデヤの前夫でサロメの父。

■**リサニヤ** 公生涯を開始した頃、ヘルモン山の北方、レバノン山脈とア

ンティ・レバノン山脈の中間に位置するアビレネを管理した国主。

■**カヤパ** 本名ヨセフ。ピラトの前任者である総督グラトゥスによって、紀元18年に大祭司に任じられ、36年シリアの総督ヴィテリウスによって解任された。大祭司アンナスの婿として、2人は密接な協力関係にあった。主イエスを十字架にかけた張本人でもある。

■**アンナス** 紀元6年クレニオによって大祭司に任命され、紀元15年に退位させられるまでその地位にあった。自分の5人の息子と婿であるカヤパが大祭司になったことから、アンナスは、退位後も大きな影響力を持っていた。主イエスを最初に尋問した大祭司。

●ポイント2.「罪の赦しに導く悔い改めのバプテスマ」とは？

※マルコの福音書1章4節～5節「悔い改めのしるしとは」(新約p.65上段)

1:4 バプテスマのヨハネが荒野に現れ、罪の赦しに導く悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。

1:5 ユダヤ地方の全域とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとにやって来て、自分の罪を告白し、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。

●ポイント3.「主イエス様の宣教」とは？

※マルコの福音書1章14節～15節「神の福音とは」(新約p.65下段)

1:14 ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。

1:15 「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」

※ローマ人への手紙14章7節～9節「パウロの勧めとは」(新約p.320上段)

14:7 私たちの中でだれ一人、自分のために生きている人はなく、自分のために死ぬ人もいないからです。

14:8 私たちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死にます。ですから、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。

14:9 キリストが死んでよみがえられたのは、死んだ人にも生きている人にも、主となるためです。

◎先週の礼拝メッセージ【少年イエス】

《主イエス様が、どのようなお方であるかということは、私たちにとっては、重要なことです。しかし、主のご降誕から、約三十歳になって、メシアとして公生涯の働きをされるまでの約三十年間については、主が十二歳の時の出来事が、聖書においては唯一の記録となります。

さて、主の両親は過越の祭りに毎年エルサレムに行っていました。イエス様が十二歳になられた時も祭りの慣習に従って都へ上ります。

申命記によりますと、『あなたのうちの男子はみな、年に三度、過越の祭、七週の祭り、仮庵の祭りのときに、あなたの神、主が選ばれる場所で御前に出なければならない。』と、定められています。

しかし、この頃には、過越の祭にだけ巡礼に来るようになっていたようです。さらに女子も同行するようになっていました。

また、ユダヤ教の「ミシュナー」によれば、「ユダヤ人の男子は十三歳にバル・ミツバを受けて成人式を迎えるから、十二歳までに父親はその子に必要な信仰教育を済ませること」が求められていました。

それゆえに、十二歳になったイエスを連れて過越の祭を祝う為に、ナザレから上って来たのです。さて、祭りが終わり、両親は帰路に着きましたが、少年イエスはエルサレムに留まっていた。しかし両親はそれに気づきませんでした。そして、少年イエスを捜しながらエルサレムまで引き返したのです。三日目に、ようやく神殿の中で、少年イエスが教師たちの真ん中に座って、話を聞いたり、質問したりしているのを見つけたのです。ここに十字架と復活の予表があります。

「どうしてこんなことをしたのですか。見なさい。お父さんも私も、心配してあなたを捜していたのです。」「どうして私を捜されたのですか。私が自分の父の家にいるのは当然であることを、ご存じなかったのですか。」ここで、少年イエスは、両親のヨセフとマリアに、ご自身が神の御子であることを、明らかにされたのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、11月19日(日)です。通常通り行ないます。